

奥積雅彦（総務省統計研究研修所教官）

統計の黎明期を支えた太政官（政表部門）・統計院の職員

1 はじめに

総務省統計局の源流となる組織である政表課は、明治4年（1871年）、太政官正院に置かれたのが始まりとされ、政表課誌は、明治4年6月に政表の業務を開始してから明治14年5月に太政官統計院が設置されるまでの史実です。統計院誌は、明治14年5月に太政官に統計院が設置されてから明治18年12月内閣制度発足に伴い統計院が廃止され、内閣に統計局が設置されるまでの史実です。政表課誌及び統計院誌についてのテキスト化を試みましたが、その作業の過程で出現した太政官政表部門、同統計院の職員の人となりについて、できる限り知りたかったです。このため、国立国会図書館デジタルコレクションその他のウェブサイトからプロフィール（ポートレートを含む）の探索を試みました。

2 太政官（政表部門）・統計院の職員一覧

太政官（政表部門）・統計院の職員を政表課誌及び統計院誌の出現順に一覧にすると【別表】のとおりです。

3 太政官（政表部門）・統計院における洋学等に精通の職員

太政官（政表部門）・統計院の職員のうち洋学等に精通している職員を政表課誌及び統計院誌の出現順に一覧にすると【別記】のとおりです。

特に、統計学の移入のために欧米の文献を翻訳する必要性から洋学（外国語）に堪能な者が多く配置されたとみられます。

4 クイズ

今回の調べもので、筆者が新たに分かったことがいくつかありましたので、クイズ形式で出題します。答は【別表】の最終頁の最下部を参照してください。

問1 別記中、後に生命保険会社の取締役になった人は？
ヒント 阿部泰蔵とともに生命保険会社の創立に関わった人です。

問2 別記中、慶應義塾で統計学の講義を行った人は？
ヒント：2人います。

問3 別記中、1873年のウィーン（オーストリア）万博でドイツ語の通訳をつとめた人は？
ヒント：2人います。

問4 別記中、妻が「無名の人」で有名な人は？

問5 別記中、後に坪内逍遙の門下生となり、作家デビューした人は？

5 おわりに

今回、残念ながら、筆者の脆弱な脳内のCPUの処理能力不足により調べきれなかった人も相当います。統計の黎明期を支えた先人たちに敬意の気持ちを込めて、引き続き、プロフィール（ポートレートを含む）の探索を行いたいと思います。

【別記】

■太政官（政表部門）・統計院における外国語等に精通の職員一覧
（院：政表課誌で出現、院：統計院誌で出現）


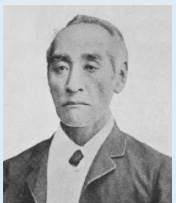


		氏名	外国語	備考
院	院	杉亨二	○	
院	院	世良太一		漢学
院	院	倉持義山		数学
院		柳田友広		漢学
院		山寺信炳	フランス語	漢学
院		鈴木敬治		数学
院		物集女清久	英語	
院	院	新井金作	英語	
院		南摩綱紀		漢学
院		横田正綱		漢学
院		山泉三郎	英語	
院	院	杉山親	○	翻訳課兼任
院		菊池忠		数学
院		阪谷朗庵		漢学
院	院	高橋二郎	フランス語	漢学、翻訳課兼任
【訳書】（フランス）モロー「統計学」下編、ガルニエ「統計入門」				
院		呉文聰	英語・ドイツ語	
【訳書】（ドイツ）ワッペウス「統計学論」、エンゲル「統計之神髓」（アメリカ）スミス「斯氏統計要論」				
院		山形良蔵	ドイツ語	
院		日下義雄	英語	留学経験
院	院	相原重政	ドイツ語	翻訳課兼任
【訳書】（ドイツ）ハウスホーヘル「国勢表記学論」				
院		杉山鶏児	英語	
院		宇川盛三郎	フランス語	
院	院	小川為次郎	英語	国文
院		松岡秀之	フランス語	漢学
院	院	岡松徑	ドイツ語	翻訳課兼任
院	院	小野弥一	フランス語	
院	院	寺田勇吉	ドイツ語	
【訳書】（ドイツ）ワッペウス「人口統計学」				
院	院	緒方道平	ドイツ語	翻訳課兼任
	院	永井久一郎	○	アメリカ留学経験
	院	楠文蔚		漢学
	院	依田昌言	ドイツ語	
	院	立田革	○	外務省出身
	院	水井周芳	○	翻訳課兼任
	院	山成哲造	○	翻訳課常員
	院	小鹿島果	○	翻訳課常員
	院	服部徳	○	翻訳課常員
	院	矢崎鎮四郎	ロシア語	翻訳課兼任

（注1）青字は、島村史郎「日本統計史群像」第3章で紹介あり。





（注2）翻訳課は、明治17年4月に統計院中に置かれる。

（注3）氏名に黄色のマーカ：甲斐国現在人別調（日本初の大規模人口調査）で現地に派遣されたメンバー（→政表課誌）。






【別表】統計の黎明期を支えた太政官（政表部門）・統計院の職員一覧（コード1：AかBで初出の明治の年月日。連番、コード2：AかBで最終登場の明治の年月日）





コード1	氏名・生没年	ポートレート	プロフィール等	A：政表課誌	B：統計院誌	コード2
040000.1	やすかわ しげなり 安川繁成 1839-1906		群馬生まれ。開成所、慶応義塾に学ぶ。森有礼の推薦により行政官制度寮書記官。明治4年(1871年)少議正、同5年高崎正風少議官に随行し欧米各国視察。太政官印書局副長、工部権大書記官、会計検査院部長等を歴任。明治30年東京市参事会員、同31年衆議院議員(第6回総選挙当選)。 【参考】国立国会図書館リサーチナビ(憲政資料)、国立公文書館デジタルアーカイブ(件名:従三位殿三等安川繁成)、【写真】「立身致富信用公録、第6編」(国立国会図書館デジタルコレクション)	明治4、7-9年 ・明治4年6月、岩倉具視が特命全權大使として欧米差遣に際し、日本政表及び日本国勢要覧の編纂を拜命 ・明治7-9年政表の事務を兼任	明治14-18年 ・明治14年11月～統計院幹事(奏任官)	181227
040000.2	宮崎誠	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一口メモ 宮崎誠、岳謙、橋本正誠</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太政官記録編輯局で明治4年(1871年)6月、安川繁成の下、日本政表及日本国勢要覧の編纂を命じられる。 ・明治4年12月太政官政表課創設期のメンバー。杉亨二の下で政表の事務を担当。 <p>【参考】『政表課誌』</p> </div>	明治4-7年		070217	
040000.3	岳謙		明治4-7年		070217	
040000.4	橋本正誠 ?-1873		明治4-6年 ・明治6年死亡		060100	
041224	すぎ こうじ 杉亨二 1828-1917		日本の近代統計学の先駆者。緒方洪庵、杉田成卿、勝海舟等の門下で蘭学を学ぶ。老中阿部正弘に仕え、以後、蕃書調所教授手伝、開成所教授職等を歴任。明治3年(1870年)民部省出仕、同4年太政官(政表)出仕後、統計院大書記官。日本における官庁統計の創設、普及に貢献。法学博士。 【参考】統計図書館コラム【No.0004】 【写真】国立国会図書館HP「近代日本人の肖像」	明治4-13年	明治14-18年 ・明治14年統計院第二課長	181227
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一口メモ 氏名に黄色のマーカー：甲斐国現在人別調(日本初の大規模人口調査)で現地に派遣されたメンバー(⇒政表課誌)</p> </div>					
050209	竹村正路			明治5-7年		070212
050307	せら たいち 世良太一 1838-1919		備後(広島県)出身。明治5年(1872年)太政官(政表)出仕後、統計院を経て内閣統計局次長。 【参考】国立公文書館デジタルアーカイブ(件名:世良太一特旨叙位ノ件)、統計集誌(456) 【写真】日本統計協会提供(統計学雑誌(300)) 漢学に精通(岡松徂「明治九年以降十年間漫録」)	明治5-13年	明治14-18年 ・明治14年統計院第七課係長	181227
050425	倉持義山		数学に精通(岡松徂「明治九年以降十年間漫録-統計学雑誌(301)所収」)	明治5-13年	明治14-18年	181227
060208.1	浦野元純 ?-1882			明治6-13年	明治15年 明治15年病死	150511
060208.2	鈴木幸英			明治6-13年		130327
070317.1	柳田友広 ?-1878		漢学に精通(岡松徂「明治九年以降十年間漫録」)	明治7-11年 ・海軍少秘書から ・明治11年死亡		111206
070317.2	山寺信炳		漢学・仏学に精通(岡松徂「明治九年以降十年間漫録」)	明治7-13年 ・明法権中属から		130327
070317.3	鈴木敬治		数学に精通(岡松徂「明治九年以降十年間漫録-統計学雑誌(301)所収」) 論文:「日本及び各人員二倍ノ期」(明治16年、統計集誌(19)所収)	明治7-13年 ・海軍省から		181227
070317.4	山本臣承			明治7-13年		130327
070317.5	福岡清蔵			明治7年		071231
070317.6	秋月胤浩			明治7-9年		091027
070512	もずめ きよひさ 物集女清久 1845-1913		慶応義塾卒。明治7年(1874年)太政官(政表)出仕。同14年明治生命保険(阿部泰蔵とともに同社の創立に関わる)、同44年同社取締役。 【参考】デジタル版 日本人人名大辞典Plus、「明治生命保険株式会社六十年史」 【写真】「慶応義塾出身名流列伝」(Google Books) 英学に精通(岡松徂「明治九年以降十年間漫録」)	明治7-13年		131231
070513.1	河村永惇			明治7年		071231
070513.2	新井金作		明治11年に製表社(のちの東京統計協会)創設に関わる。同12年に福澤諭吉が大隈重信にスタチスチクの仲間を推薦した書簡で「是ハ統計局の人」(杉亨二、新井金作、呉文聰)として書き添えあり。 【参考】統計集誌(初号)「統計協会来歴」、統計TodayNo.136 英学に精通(呉文聰著作集-第2巻)	明治7-13年	明治14-18年	180716

コード1	氏名・生没年	ポートレート	プロフィール等	A：政表課誌	B：統計院誌	コード2
070628	なんま つなのり 南摩綱紀 1823-1909		会津藩藩士。藩校日新館、のち江戸の昌平覺で学ぶ。文久2年(1862)年北海道の藩領代官となる。維新後、京都府、太政官(政表)勤務を経て、東京大学教授、高等師範学校教授などを歴任。 【参考】国立公文書館デジタルアーカイブ(元女子高等師範学校教授兼東京師範学校教授南摩綱紀特旨叙位ノ件)、デジタル版 日本人名大辞典Plus 【写真】南摩綱紀著「環碧樓遺稿」(国立国会図書館デジタルコレクション) 漢学に精通(岡松経「明治九年以降十年間漫記録」)	明治7-10年		101029
070709.1	横田正綱		漢学に精通(岡松経「明治九年以降十年間漫記録」)	明治7-13年		130327
070709.2	下山良太郎			明治7年		071231
071104	杉山親		蘭学・独逸学に精通(岡松経「明治九年以降十年間漫記録」) 明治17年4月翻訳課(統計院内)兼任	明治7-13年	明治14-18年	181227
071117	山県三郎		英学に精通(吳文聰著作集-第2巻)	明治7-9年 *9年(原文)山形三郎		091231
071202.1	田中玄文			明治7年		071231
071202.2	町野精蔵			明治7-11年		110221
071202.3	桂香亮			明治7年		071231
071202.4	間庭又次郎			明治7-13年	明治15-18年	181227
071202.5	八重野範三郎			明治7-8年 ・福島県に転補		080805
071231	菊池忠(菊地忠)		数学に精通(岡松経「明治九年以降十年間漫記録」)	明治7-13年 ・茨城県学校監事 兼事務掛より		130327
080119	さかたに しろし 阪谷素 さかたに ろうろ (阪谷朗廬) 1822-1881		岡山生まれ、大阪で大塩中斎、江戸で昌谷精溪等に学び、帰郷して嘉永6年(1853年)夏郷校興讓館の督学に迎えられる、明治元年(1868年)芸州藩主より藩政顧問に招聘されるも藩置県に際し禄を辞す、維新後は参謀局、太政官(政表)、大審院、内務省などに仕出したあと、同13年学塾春崖学舎を開く。明六社会員。 阪谷芳郎の父。 【参考】国立国会図書館リサーチナビ 【参考】【写真】阪谷芳郎編「阪谷朗廬先生五十回忌記念」(国立国会図書館デジタルコレクション)	明治8年		080119
080204	村上義方			明治8-13年 ・内務省に転任		130913
080312.1	杉浦赤城			明治8-9年 ・海軍省から		091231
080312.2	たかはし じろう 高橋二郎 1852-1917		南総(千葉県)出身。大学南校(現在の東京大学)で仏語を修め、明治6年(1873年)司法省、同8年太政官(政表)出仕。引き続き統計院、内閣統計局に勤務。同24年東京高等商業学校(一橋大学の前身)教授を兼任。著書、論文等多数。 【参考】統計学雑誌(300)、島村史郎「日本統計史群像」(杉亨二と門下生) 【写真】日本統計協会提供(統計学雑誌(300)) 漢学・仏学に精通(岡松経「明治九年以降十年間漫記録」) 明治17年4月翻訳課(統計院内)兼任	明治8-13年	明治14-18年	181227
080520.1	くれ あやとし 呉文聰 1851-1918		江戸の青山生まれ。渡辺魯輔の下で漢学、箕作麟祥(いとこ)の下で英語を学び、大学南校(現在の東京大学)を経て明治3年に慶應義塾に入るが1年足らずで退塾。明治8年(1875年)、太政官(政表)、同13年内務省、同26年農商務省を始めとする官公庁に勤務。開成学校(後の東京大学)、東京専門学校(後の早稲田大学)、慶應義塾などで統計学の講義も行う。日本の統計理論のパイオニア。著書、論文等多数。国勢調査創始の功労者(米の第12回人口センサスの視察し「国勢調査法律草案」を作成)。私塾でドイツ語も学ぶ。ドイツ語の訳書あり。 【参考】統計図書館コラム【No.0005】【No.P02】 【写真】総務省統計局HP 英学に精通(岡松経「明治九年以降十年間漫記録」)	明治8-13年		131117
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一ロメモ 永井荷風の父にヘッドパティンクされる?! 呉文聰は、後掲の永井久一郎(コード1:140718.3)に請われ、明治13年内務省に転じ、後掲の依田昌言(コード1:140903)らと衛生統計の整備を図るとともに、府県の統計表様式を定めたそうです。 【参考】藝内武司「日本統計学史における呉文聰」</p> </div>						
080520.2	山形良蔵		独逸学に精通(吳文聰著作集-第2巻)	明治8-9年 ・司法省に転補		090607
080520.3	石野唯智			明治8-13年		130327

コード1	氏名・生没年	ポートレート	プロフィール等	A：政表課誌	B：統計院誌	コード2
090112	くさか よしお 日下義雄 1851-1923		会津生まれ。藩校で漢学を学び、その後、大阪英語学校に入学。米國留学を経て、明治7年(1874年)太政官出仕、同9年井上馨に随行して欧州派遣。英国で統計学を修めるとともに経済学の研究を行う。帰国後、明治15年内務省衛生局統計課長事務取扱、同17年農商務省統計課長などを歴任。その後、長崎県知事、福島県知事、衆議院議員をつとめる。 【参考】【写真】「日下義雄伝」(国立国会図書館デジタルコレクション)	明治9年		090503
090123	あいばら しげまさ 相原重政 1847-1914		明治4年(1871年)大学出仕。同6年博覧会事務官としてオーストリアに派遣され統計取調を仰せ付けられる。帰国後、専ら中央統計機関(太政官(政表)、統計院、内閣統計局)において、統計年鑑の創刊、人口静態調査の改正、人口動態調査の創設に参画。論文等多数。 【参考】国立公文書館デジタルアーカイブ(件名:従五位勲五等相原重政) 【写真】日本統計協会提供(統計集誌(401)) 独逸学に精通 (岡松径「明治九年以降十年間漫録」) 明治17年4月翻訳課(統計院内)兼任 英学に精通 (呉文聰著作集-第2巻)	明治9-13年 ・澳国(オーストリア)博覧会 残務取扱掛から	明治14-18年 ・明治14年統計院 第四課係長	181227
<p>一ロメモ 1873年のウィーン(オーストリア)万博は、明治政府がはじめて正式に参加した万博です。相原重政と後掲の緒方道平(コード1:130921)は、その事務官としてドイツ語の通訳をつとめました。 【参考】「澳国博覧会参同記要」(国立国会図書館デジタルコレクション)、国立国会図書館HP【コラム】ウィーン万博とジャボニスム</p>						
090317	杉山鶏児			明治9-12年		121231 ^P (1203依職編)
090406	うかわ せいざぶろう 宇川盛三郎 1855-1925		徳島生まれ。幼時より漢学、和洋数学、仏語を学ぶ。貢進生補欠となり南校(のちの開成学校)に進み、明治9年(1876年)太政官(政表)、同14年外務書記生、パリ公使館勤務、内務省参事官を経て、同22年東京市議会議員に。諸学校で行政法の講義等を行う。 明治11年に製表社(のちの東京統計協会)創設に関わる。 【参考】佐々木繁典「宇川盛三郎」(『罪と罰』32(4))、統計集誌(初号)「統計協会来歴」、同(324) 仏学に精通 (岡松径「明治九年以降十年間漫録」)	明治9-13年	明治14年	141215
090719	兼子唯郎			明治9-13年		130327
090904	小川為次郎		国文に精通 (岡松径「明治九年以降十年間漫録」) 英学に精通 (呉文聰著作集-第2巻)	明治9-13年	明治14年	140704
090929	松岡秀之		漢学・仏学に精通 (岡松径「明治九年以降十年間漫録」)	明治9-11年		110919
091107	おかまつ かい 岡松径 1850-1916		江戸に生まれ。昌平覺で漢学を学び、明治2年(1869年)大井鎌吉のもとでドイツ語を学ぶ。同9年太政官(政表)出仕。同14年統計院勤務の後、同19年農商務省属となり、陸軍省嘱託も兼ね、陸軍経理学校で統計学を講義。 同24年からは陸軍教授を嘱託され、以後20年間務めた。また、共立統計学校、統計講習会、慶応義塾で統計学の講義を行う。主な著書「政治統計学講義」。 【参考】統計学雑誌(359)「岡松径君伝」、Bibliographical Database of Keio Economists 【写真】日本統計協会提供(統計学雑誌(300)) 明治17年4月翻訳課(統計院内)兼任	明治9-13年	明治14-18年	181227
100817	おの やいち 小野弥一 1847-1893		昌平覺を経て、横浜仏語伝習所でフランス語を学ぶ。開成所教授ののち徳川家に仕え、明治4年(1871年)フランスに留学のため出航。統計学等を学ぶ。帰朝後、同10年太政官(政表)勤務を経て、同14年統計院、会計検査院に勤務。その後、工部省、文部省(帝國大学書記官)、会計検査院検査官補を経て、同25年ニューカレドニア初代日本人移民団総監督を嘱託される。同26年現地で死去。 【参考】統計図書館コラム【No.S01】 【写真】小野健次氏所蔵	明治10-13年	明治14-15年	151004
101101	古屋矯			明治10-13年		130327

コード1	氏名・生没年	ポートレート	プロフィール等	A：政表課誌	B：統計院誌	コード2
110308	てらだ ゆうきち 寺田勇吉 1853-1921		江戸の四ツ谷生まれ。明治4年 ^(1871年) 大学南校(現在の東京大学)及び開成学校で、 独逸学 ・鉱山学を学び、同7年鉱山局に出仕、同11年太政官(政表)出仕、同14年統計院勤務。同16年兼ねて共立統計学校で統計学の講義を行う。同年、文部省に転じ、東京外国語学校等で外国語教育にあたり、同22年欧米に教育制度等を視察。帰朝後、文部省参事官・文部省参事官・第一高等学校教授、文部書記官・文部省参事官、視学官を歴任。 【参考】国立公文書館デジタルアーカイブ(件名：寺田勇吉特旨叙位ノ件) 【参考】【写真】「寺田勇吉経歴談」(国立国会図書館デジタルコレクション)	明治11-13年	明治14-16年	161227
120226	あおき たもつ 青木保 1852-1908	 ほけ 木 青 保 だ	備中(岡山県)生まれ。明治3年(1870年)貢進生をもって大学南校に入り法学を修め、同8年兵庫県出仕。その後、大阪師範学校教員、秋田師範学校副校長、同校校長を経て同12年太政官(政表)勤務後、同13年文部権少書記官に転任。文部書記官兼文部省参事官を歴任。 【参考】「国民過去帳、明治之巻」1066頁、国立公文書館デジタルアーカイブ(件名：一等属青木保御用掛被命ノ件) 【写真】「明治肖像録」427頁(国立国会図書館デジタルコレクション)	明治12-13年		130601
130328.1	佐藤佳馬			明治13年	明治14-18年 ・東京府に転任	187720
130328.2	浅沢源八郎			明治13年	明治14年	141121
130420	うしば たくぞう 牛場卓三 (卓蔵、卓造) 1850-1922 (出生年は嘉永3年を西暦変換)		慶応義塾卒。内務省、兵庫県を経て、明治13年 ^(1880年) 太政官(政表)、同統計院、大蔵省(主税官)などに奉職。太政官少書記官として統計院に勤務するが、「明治十四年の政変」で大隈重信に従い退官。また、時事新報などを経て、明治20年 ^(1887年) 山陽鉄道会社勤務。同25年衆院議員。 【参考】「20世紀日本人名事典」、統計図書館コラム【No.0002】 【写真】「慶応義塾出身名流列伝」(Google Books)	明治13年 ・兵庫県御用掛から	明治14年 ・明治14年統計院第三課、第九課長	141013
130610	柳壮蔵			明治13年	明治14年	141008
130921	緒方道平 1846-? 一口メモ 緒方竹虎(朝日新聞社副社長、自由党総裁、副総理)は、緒方道平の三男。 【参考】友田清彦「ウィーン万国博覧会と日本農業(上)」		備中国出身。蘭医伊藤慎蔵につき蘭学を学んだ後、大阪の緒方郁蔵(緒方洪庵の義弟。後に道平の養父に。)の塾に入学。ウィーンにおける万国博覧会の開催 ^(1873年) に際し、事務局事務官として渡澳。帰朝後、内務省(山林行政)を経て、明治13年 ^(1880年) 太政官(政表)、統計院勤務。その後、山形県、福岡県の書記官を歴任。 【参考】前掲の「ウィーン万国博覧会と日本農業(上)」 明治17年4月翻訳課(統計院内)兼任	明治13年	明治14-18年 明治14年統計院第六課飯長	181227
131117	大町総策(惣策)			明治13年	明治14-18年	181227
131223	島村泰(島邨泰)			明治13年 ・大蔵属兼任	明治14-18年 ・明治14年統計院第五課飯長	181227
140621	やの ふみお 矢野文雄(竜溪) 1851-1931		慶応義塾卒。郵便報知新聞副主筆、大蔵省入省を経て、明治14年 ^(1881年) 太政官大書記官兼統計院幹事に就任するが、「明治十四年の政変」で大隈重信に従い退官。翌年東洋議政会を主宰し、立憲改進黨結成に参加。同年1月に社長に就任した郵便報知新聞を党の機関紙として党の発展に尽力。同23年宮内省式部官、同30年清国駐劄特命全権公使を務めた後、大阪毎日新聞社副社長に就任。 【参考】【写真】国立国会図書館HP「近代日本人の肖像」、統計図書館コラム【No.0002】		明治14年 ・明治14年統計院第一課、第八課長	141013
140701.1	渡辺源二郎 (渡辺源次郎)				明治14-18年	181227
140701.2	関三吉郎				明治14-18年	181227
140414	斎藤信一				明治14-18年	181227
140715	蒲生俊				明治14-18年	181227

コード1	氏名・生没年	ポートレート	プロフィール等	A：政表課誌	B：統計院誌	コード2
140718.1	いぬかい つよし 犬養毅 1855-1932		慶應義塾に学ぶ。郵便報知新聞の記者として西南戦争に従軍。明治14年 ^(1881年) 太政官権少書記官として統計院に勤務するが、「明治十四年の政変」で大隈重信に従い退官。東海経済新報記者をへて、立憲改進黨創立に参画。大同団結運動で活躍。明治23年第1回総選挙で衆議院議員に当選、以後第18回総選挙まで連続当選。第1次大隈内閣文相、第2次山本内閣逓相をつとめる。大正11年 ^(1922年) 、革新倶楽部を組織し、同13年加藤高明らと護憲三派内閣を結成、逓相に就任。昭和4年 ^(1929年) 立憲政友会総裁。同6年、首相となるが、翌年5・15事件で暗殺される。 【参考】【写真】国立国会図書館HP「近代日本人の肖像」、統計図書館コラム【No.0002】		明治14年	141013
140718.2	おざき ゆきお 尾崎行雄 1858-1954		慶應義塾、工学寮を共に中退。その後、新潟新聞、郵便報知新聞などのジャーナリズムの世界に身を投じる。明治14年 ^(1881年) 太政官権少書記官として統計院に勤務するが、「明治十四年の政変」で大隈重信に従い退官。同23年第1回総選挙に当選し、連続25回当選。その間に文相、東京市長、司法相などを歴任。大正元年 ^(1912年) の第一次護憲運動では犬養毅と共にその先頭に立ち、桂首相を追求して、「憲政の神様」と呼ばれた。 【参考】【写真】国立国会図書館HP「近代日本人の肖像」、統計図書館コラム【No.0002】		明治14年	141013
140718.3	なかい きゆういちろう 永井久一郎 1852-1913		名古屋生まれ。慶應義塾、大学南校（貢進生）に学び、藩命によりアメリカ留学。明治7年(1874年)文部省出仕。同12年内務省衛生局（衛生統計の整備を図る）、同14年兼統計院、その後、衛生局第三部長、帝国大学書記官、文部省会計局長兼参事官、文部書記官を歴任。 統計院の系 【参考】国立公文書館デジタルアーカイブ（件名：永井久一郎特旨叙位ノ件）、藪内武司「日本統計学史における呉文聡」、徳富蘇峰記念館HP【写真】「慶應義塾出身名流列伝」(Google Books)		明治14-16、18年	181225
140727	辻啓一郎				明治14-18年	181227
140812	くすのき ぶんろう 楠文蔚 1828-1902		儒家、昌平黌の佐藤一斎、日出藩侍読の米良東嶠に師事。佐伯藩の藩立学区で補助教官、矢野龍溪（矢野文雄）は、少年時代に楠文蔚からも藩立学校や楠の家塾で漢学を学ぶ。経緯は不明だが矢野（幹事）の在籍する統計院で御用掛として勤務。 【参考】デジタル版 日本人名大辞典Plus、「矢野龍溪（大分県先哲叢書）」、「龍溪矢野文雄君伝」		明治14-15年 ・陸軍省御用掛に	150304
140902	西幸吉 1855-1931		薩摩出身。琵琶演奏家。明治13年 ^(1880年) 文部省音楽取調掛を拝命。同14年統計院本務文部省音楽取調掛兼務、その後、宮内省式部寮に転任。 【参考】【写真】「代表的人物及事業」(Google Books)		明治14年 ・文部省から ・式部寮に	141222
140903	よだ しょうげん 依田昌言 1851-1901		大蔵省で地租改正の事務をあずかり、後に広島県に転任。明治13年 ^(1880年) 、内務省衛生局統計課において呉文聡とともに衛生統計の整備を図る。同15年～衛生局の上司 ^(統計課長) は日下義雄（コード1：090112）で後の長崎県知事。その後、依田も長崎県に赴任。独逸学に精通。主な訳書：「工業的労働者問題」、同「国家経済論」 【参考】統計集誌(238)、藪内武司「日本統計学史における呉文聡」等 【写真】【参考】依田昌言訳「工業的労働者問題」(国立国会図書館デジタルコレクション)、同書所収の「依田昌言君小伝」		明治14-17年 ・広島県から ・内務省兼任	171231

コード1	氏名・生没年	ポートレート	プロフィール等	A：政表課誌	B：統計院誌	コード2
141025	立田革 1845-?		信州松代藩出身。慶應義塾等で学び、明治4年(1871年)外務省出仕、大蔵省を経て、同14年太政官権少書記官(統計院)、翌年外務権少書記官に転じる。同16年シンフランシスコ領事、同23年釜山領事を歴任。 【参考】国立公文書館デジタルアーカイブ(件名:領事立田革昇級ノ件…ほか)【参考】【写真】「慶應義塾出身名流列伝」(Google Books)		明治14-15年	150510
141122	水井周芳		明治17年4月翻訳課(統計院内)兼任		明治14-18年	180716
141208	細川広世		明治2年(1869年)医学学校に仕出、文部省出仕等を経て同14年准奏任御用掛、同16年少書記官。 【参考】国立公文書館デジタルアーカイブ(件名:非職元統計院少書記細川広世特旨叙勲ノ件)		明治14-18年	181227
141213	栗原理三郎				明治14-15年	150913
150125	多羅尾光広				明治15-18年	181227
150128	武市利美				明治15-16年	161231 ^P
150203	塚原周蔵				明治15-18年	181227
150210	青島一郎 1838-?		明治7年(1874年)大蔵省出仕、会計検査院、同15年大蔵省に戻り、統計院、内閣統計局、内閣書記官室統計課勤務。 【参考】国立公文書館デジタルアーカイブ(件名:内閣属青島一郎外十一名特旨叙勲ノ件)		明治15-18年 ・大蔵省から	181227
150222.1	千馬武雄				明治15-18年	180708
150222.2	中山隆治				明治15-16年 ・工部省御用掛へ	160918
150222.3	小林匡顕				明治15-18年	181227
150222.4	岸田英三				明治15-18年 ・郵便局へ	18??24
150317.1	山成哲造 1844-1920		前掲の阪谷朗彦(コード1:080119)に師事し漢学を学ぶ。慶應義塾卒業後、造船所に勤務。その後、翻訳業に専念(教育関係の英書の翻訳)。明治15年(1882年)統計院、元老院、帝室制度取調局に勤務。 【参考】小野博司「近代法の翻訳者」山成哲造の研究(福武財団HP)、備作人名大辞典(乾巻)(国立国会図書館デジタルコレクション、256コマ) 明治17年4月翻訳課(統計院内)常員		明治15-18年	180716
150317.2	嘉村今朝一				明治15-16年 ・内務省御用掛へ	160308
150317.3	筒井源次郎				明治15、17-18年	181226
150317.4	深谷立行				明治15-17年	171217
150404	阿左見増太郎				明治15-18年	181227
150414	仁木政信				明治15-16、18年	180716
150418.1	いしばし しげとも 石橋重朝 1845-1919		佐賀藩士出身。開成学校に学ぶ。明治4年(1871年)佐賀藩権大属に任ぜられ、その後、工部省、文部省、大蔵省を経て、同15年統計院権大書記官に転じ、内閣統計局長、内閣書記官室統計課を歴任。 【参考】国立公文書館デジタルアーカイブ(件名:統計局長石橋重朝叙勲ノ件、統計局長石橋重朝叙勲ノ件)【写真】「総理府統計局八十年史稿」		明治15-18年	181227
150418.2	村田豊				明治15-16年 ・参事院御用掛へ	160501
150418.3	井上瑞枝				明治15-18年	180716
150421	とりお ちやた 鳥尾小弥太 1848-1905		明治3年(1870年)陸軍に入り、諸官を歴任。その後、同15年統計院長、枢密顧問官、貴族院議員などを務める。 【参考】国立公文書館デジタルアーカイブ(件名:鳥尾小彌太(枢密院文書・枢密院高等官転免履歴書 明治ノ二)) 【写真】「総理府統計局八十年史稿」		明治15-18年 ・陸軍中將から	181227
151025	太田十一				明治15年	151231
160301	おがしま はたす 小鹿島果 1857*-1892 * 国立国会図書館サーチによる。ただ、国立公文書館デジタルアーカイブ(件名:会計検査院属小鹿島果農商務省技師試験ニ被任ノ件)に所収の本人の履歴書では、出生年は文政2年(1855年)。(⇒諸説あり)		旧大村藩出身。工部大学校(現在の東京大学工学部)で鉱山学を修め、明治13年(1880年)工部省を経て、同16年統計院長、その後、会計検査院、農商務省に勤務。同25年結核により亡くなる。 著書に「日本食志 一名日本食品滋養及沿革説」(明治18年)、「日本災異志」(明治27年、遺稿を基に出版。)などがある。 【参考】国立公文書館デジタルアーカイブ(件名:会計検査院属小鹿島果農商務省技師試験ニ被任ノ件)、大村市観光情報サイト(歴史故郷の偉人巡り)、滝乃川学園HP等 【写真】滝乃川学園 石井亮一・筆子記念館 提供 明治17年4月翻訳課(統計院内)常員		明治16-18年 ・工部省から	181227
				一ロメモ 小鹿島果の妻は「無名の人」で有名?! 小鹿島果は、「無名の人」で有名な石井筆子(女性教育向上の先駆者、知的障がい者の福祉と教育の草分け)の最初の夫。前掲の「日本災異志」に筆子のおくがきあり。会計検査院時代、欧米諸国の会計検査制度の調査のため渡辺昇院長らとともに洋行。当時の院長は筆子の叔父。 【参考】一番ヶ瀬 康子・津曲 裕次・河尾 豊司 編「無名の人 石井筆子」、前掲の大村市観光情報サイト、滝乃川学園HP、会計検査院三十年史等		

コード1	氏名・生没年	ポートレート	プロフィール等	A：政表課誌	B：統計院誌	コード2
160320	服部徳		明治17年4月翻訳課（統計院内）常員		明治16-18年 ・会計検査院から	180716
<p>一ロメモ ジャン・ジャック・ルソー「Contrat social ou Principes du droit politique」（社会契約論）の初の邦訳書（「民約論」（明治10年^(1877年)出版））の翻訳者である服部徳が統計院に在籍した服部徳と同一人物であるかは確認できませんでした。</p> <p>【参考】レファレンス協同データベース（管理番号D121022173024）、国立国会図書館HP「近代日本とフランス」 ※「民約論」の販売サイトによれば「訳者服部徳（生没年不詳）は、フランス学を修めた後、統計院翻訳課等に所属」とあり、昨年、そのリソースについて確認すべく同書の出版社に照会し、現在のところ回答待ち状態です（お問い合わせありがとうございますメール（自動配信）はいただきましたが・・・）。</p>						
160502	河村良作				明治16-18年	181227
160630.1	川瀬良素				明治16年	161231
160630.2	松川輝太郎				明治16-18年	181226
160630.3	在田為憲				明治16-18年	180727
161002	近藤一八				明治16.18年	180708
161008	やざき しんしろう 矢崎鎮四郎 ペンネーム 嵯峨の屋おむろ 1863・1947	<p>【写真】国立国会図書館デジタルコレクション（※国立国会図書館/図書館・個人送信限定）で閲覧可能 https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1883151/4 （現代日本文学全集 第10篇）</p>	<p>明治9年^(1876年)東京外国語学校（現在の東京外国語大学）露語科入学（給費生）。卒業後、統計院に勤務。明治18年官制改革により自然退職。二葉亭四迷（東京外国語学校時代に相知る）の勧めで文学に専念。翌年、坪内逍遙の門下生となる。 明治20年作家デビュー。同39年、陸軍士官学校ロシア語教官を務める。 【参考】杉崎俊夫「嵯峨の屋おむろ研究」、日本文学全集、第86（名作集 第1）、 明治17年4月翻訳課（統計院内）兼任</p>		明治16-18年	181227
<p>一ロメモ 当時、官吏は自由任用が原則でした。矢崎鎮四郎は、妹が鳥尾統計院長宅の女中であった縁で明治16年^(1883年)に統計院に勤務することになったようです。 【参考】人事院HP>平成20年度 年次報告書（戦前の公務員制度（官吏制度）、「嵯峨の屋おむろ傳・聞書」（柳田泉「隨筆明治文学」所収）</p>						
170614	奥田一夫				明治17-18年	181227
181008.1	小此木辰太郎				明治18年 ・工部省から	181227
181008.2	新倉蔚				明治18年 ・文部省から	181227
181114	福沢重香				明治18年	181227

【凡例】

- ① 統計図書館コラム【人物編】又は【特別編】で、プロフィール（ポートレートを含む）が紹介されているもの
- ② 上記①以外で、島村史郎「日本統計史群像」で氏名等の掲載があるもので、今回、ポートレート等プロフィールの情報収集を試みたもの
- ③ 上記①②以外で、今回、ポートレート等プロフィールの情報収集を試みたもの

【問の答】

- 問1 物集女清久（コード1：070512参照）
- 問2 呉文聰（コード1：080520.1参照）、岡松径（コード1：091107参照）
- 問3 相原重政（コード1：090123）、緒方道平（コード1：130921参照）
- 問4 小鹿島果（コード1：160301参照）
- 問5 矢崎鎮四郎（コード1：161008参照）